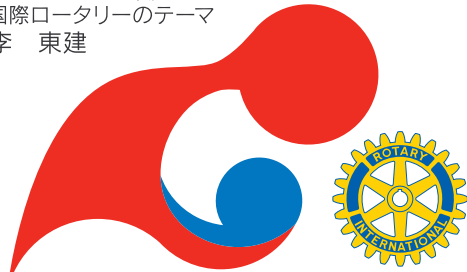


2008～2009年度
国際ロータリーのテーマ
李 東建



Make Dreams Real

夢をかたちに

会長／齋藤清蔵 幹事／遠藤光一

RI第2510地区

留萌ロータリークラブ 会報

2008▶2009 WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長テーマ

出席と参加、親睦と奉仕の 意識を高め地域に奉仕

プログラム

- | | | |
|-----------------------------------|--|--------------------------|
| ●本日
「慶祝夜間例会」 | 結婚記念日
10月8日 河部 勲
10月10日 森 俊二
10月10日 松崎 裕二 | 特別慶祝（銀婚式）
10月10日 森 俊二 |
| ●次週予定
「職業奉仕月間」にちなんで
職業奉仕委員会 | | |

No. 2345

第13回 10月8日

出席報告

前例会

会員総数	45名
出免会員	6名
出免出席	2名
出席会員	30名
出席率	78.05%

前々会

第10回 9月9日

出席会員	45名
メイクアップ	0名
修正出席率	100%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F

📌 会長報告

- 9月18日(木)留萌ライオンズクラブ創立49周年記念祝賀会に参加して参りました。
- 9月21日(日)留萌市手をつなぐ育成会「08年収穫祭パーティー」に出席してまいりました。
- 2007～08年度国際ロータリー第2510地区第2グループ都市連合会及び芦別RC創立50周年記念式典(5月31日)に出席した記念のDVDを受領しました。

📌 幹事報告

- 1) ロータリーの友9月号が届いております。本日配付いたします。
- 2) 砂川RCより10月例会のお知らせを受領し

ました。

- 3) ロータリー米山記念奨学会より奨学事業豆辞典が届いております。また米山月間の資料も届いております。来月は米山月間になりますのでよろしくお願ひします。

ゲスト

留萌商工会議所青年部副会長 武田 佳彦様

📌 3分間情報

会員研修委員会

田中委員

日本で学ぶ外国人留学生を支援する、日本の全ロータリークラブによる「多地区合同奉仕活動」です。これまでに支援した奨学生は109か国1万3,902人にのぼり、日本の民間奨学財団では最大規模です。

第12回 9月24日(水) 天候/曇

「日本ロータリーの父」米山梅吉氏（1868－1946）の没後、彼の功績を偲ぶために何か有益な事業を、という声がロータリアンから上がりました。

「世界に“平和日本”を理解してもらうためには、まずアジア諸国の理解を得なければならぬ。アジアから一人でも多くの留学生を迎え入れ、平和を求める日本人と出会い、互いに信頼関係を築くことこそが、日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業ではないか」。こうして東京RCで始められた「米山基金」が、全国ロータリークラブの合同事業として広がり、1967年7月、文部省（現文部科学省）から財団法人の許可を得るに至りました。

年間奨学生数約800名、事業費14億2千万円（2005年度決算）、会員皆様からいただいた寄付金は、すべて奨学生のために使われています。ロータリアンの寄付で支えられていますが、99年から04年度までの6年間で、総額16億5千万円の特別積立金を取り崩さなければなりません。財政の健全化を図るために、寄付金に見合った支援規模とし、1000名だった採用数と奨学金額の見直しをして、さらに2005年度からは特別積立金を取り崩しておりません。1990年以降の奨学金は、大学生12万円・大学院生15万円でしたが、2005年度より、大学生が月額10万円、大学院生14万円で、最長2年間・人数枠は800名、毎年2月15日が可否の発表で、45歳未満の年齢制限があります。

<http://www.rotary-yoneyama.or.jp>

ニコニコBOX

- ・無事3ヶ月が過ぎました 大変寒くなってきましたので会員の皆さんお体を大切にしてください 齋藤会長
- ・前回の例会では社会奉仕委員会担当でしたが仕事で例会を欠席してしまいました 申し訳ありません 佐藤(寛)社会奉仕委員長
- ・澤田会員からあんどんの写真を頂きました 佐藤(寛)会員
- ・ゴルフコンペ優勝 関野会員
- ・ゴルフコンペ準優勝 江端会員

・ゴルフコンペ1位	大嶋会員
・皆様のご厚情に感謝いたします	清水会員
前 回	301,000円
今 回	21,000円
累 計	322,000円

プログラム

「雪のぬくもり」

まち灯り実行委員会

委員長 申橋 信幸 会員

「まち灯り」、皆様のご理解ご協力のもと、昨年11月30日のプレオープンを皮切りに、留萌の街を良くしたい、街に賑わいを取り戻したいとの思いの中、街中コミュニティ作りを目指し、まち灯り実行委員会を立ち上げました。

街の活性化を図る事を目的としながら、子供から大人まで気軽に参加出来る、地域コミュニティ広場を開催し、近隣市町村、各行政機関とタイアップしながら人・食・地域の魅力の情報の発信源となるよう努めております。お金を掛けなくても何かが出来ると！私たちはこうした自発的で活発なコミュニティ活動がこれからの街づくりに不可欠ではないかと思ひ、一丸となって頑張っております。

暗い不況ムードの中ではありますが、少しでも留萌に活力を取り戻そうと市民主導、市民参加型の街づくりを目指し、物事に囚われず、自分達の創意工夫、そして知識・経験豊富な高齢者、アイデア豊かな子供達に協力を求めながら多くの発想を持ち、実行行動していかなければならないと考えています。様々な視点から物事を考え、ゼロから無限大に広がる楽しいコミュニティの場を繰り広げ1年に1回のイベントは沢山ありますが、実行委員会では毎月皆さんに楽しんでいただけるように、今までに無いコミュニケーションの場を作る努力をしている所であります。

さて、当初は「寒いのにあいつ等何考えているんだ」とか「やったって人なんか来るわけない」なんて言われたりもし、行政機関に相談に行っても「ふ～ん何かやるの」みたいな感じでした。そんな期待と不安の中のプレオープン。

WEEKLY REPORT

設営準備をしながら皆で、人が来るのか？誰も来なかったらどうする？など色んなジレンマを抱きながら開催したのが昨日のような気がします。結果としては5時開催前に沢山の方々に歩道に並んでいただき、約300人の来場をいただき、大好評に終る事が出来ました。しかし、感じたのは無料でものを配ると言えば人は集まるのだなという思いでした。その日は感無量で朝まで飲んだのは言うまでもありません。

そして12月「まち灯りクリスマスイベント」を開催。日中、3保育園2幼稚園の年長さんにスノーキャンドルの製作に協力していただき、約100個のスノーキャンドルが出来あがりました。ローソクを入れ点火した時は、言葉で言い表せないほどきれいな灯りが出来たことを思い出します。また、この頃から行政機関も積極的に協力し始めてくれた事を付け加えておきます。スノーキャンドル作りは12月から3月まで行い、子供達のよい思い出になったのではないかと思います。

12月は菓子組合青年部の皆さんに「シュークリームツリー」を製作していただき、来場者にミニシュークリームのプレゼント。

1月は「ザ・新年会」を開催。増毛国稀酒造さんにご協力を頂き、「振舞い酒」。商工会議所より沖田会頭、対馬副会頭、そして何よりも私達の活動に多大なるご理解を下さった萌福祉サービスの水戸会長を招き、鏡割りをした事が記憶に残っております。

2月は「バレンタインフェスタ」を開催。うすやの酒谷漁業部さんにご協力いただき、バレンタインチョコレートならずバレンタインホタテを来場者にプレゼントさせて頂きました。また大沼さんが長の商店街連合会さんとタイアップさせて頂き、かまくら広場でまち灯りを開催させて頂きました。

3月はお世話になった保育園・幼稚園への感謝状、そして年長さんへ祝卒園を兼ねた感謝状のプレゼントを行い、皆さんに喜んでいただき私達も涙が出ました。

4月になると雪もなくなり、まち灯りとしては初めての昼開催を行い、夜の部ではプチ結婚式を行いました。昼・夜の2部構成で行い、お

昼に子供達が自転車に乗って続々と来場してくれたのは、実行委員会皆でまち灯りをやって良かったと言う気持ちにさせてくれたのは言うまでもなく、私達に自信を持たせてくれた時期でもありました。夜の部のプチ結婚式は私達の所属する留萌商工会議所青年部のメンバーでもあります安達のプチ結婚式で、メンバー始め沢山の来場者に祝してもらい、本人も満足していただき、楽しく過ごせた日であるました。この日は約2000人の来場者をいただいております。

5月のまち灯りは「祭り」と題して開催。6月は神社下商店街の「元気が出る縁日」とタイアップ企画。6月は留萌支庁前で「北海道洞爺湖サミット」に関連しガイアナイトまち灯りを開催。そして吞涛祭り前夜祭として駅前広場で開催。7月は正直言って体がボロボロになるんじゃないかと思うほどでした。

8月、念願でありました留萌ゴールデンビーチでの開催。対馬留萌観光協会会長、市内各企業のご協力をいただき開催出来たのは、記憶に新しく残っております。昼は留萌黒潮太鼓の皆さんの演奏を始め、子供のダンスショー、留萌高校吹奏楽部の演奏等で盛り上がりました。夜の部ではものまねライブを皮切りに、旭川・札幌よりセミプロの6バンドが出演してくれ、会場を大いに沸かせてくれました。

9月は、留萌高校生・増毛高校生の中でイベントに興味のある子供達に企画・運営をお願いし開催させて頂きました。私達が描く街創りと子供達が描く街創り。改めて勉強させて頂いた点もあり、有意義なイベントを開催できました。また、次世代に育つ子供達に夢と希望そして新しい楽しさを学んでいただく、絶好の機会だったかもしれない日でもありました。

私達実行委員会は市民が街づくりに参加すると言うより、市民が街づくりを主導しているそんな街づくりを目指しながら、一つひとつ自分達の出来る事から始めていこうと思っております。行政に頼るのではなく、行政が魅力を感じ、一体となりこの街を良くしていけたらばと思っています。

まち灯りを通じて老若男女関係なく、仲良く手を取り合い共感していただき、私達のコンセ

第12回 9月24日(水) 天候/曇

プトであります「たくさんの出会いと発見、これがまた人を呼び、たくさんの情報の発信源となり、共有しあえる楽しいコミュニティーの広場」にしたいと思っています。

最後になりますが、私たち実行委員会では当初「少し頑張ってみようか」から、「出来るところまで頑張るぞ」に気持ちも変化し、諦めない事、継続することの大切さを感じている次第です。私自身、この活動を通じてたくさんの方々とお会いでき、多くを学ばさせて頂きました。今までの考え方が現状の姿だとすれば、これからは学んだことを実行していく自発的行動という新しい姿を追い求めるべきなのかもしれません。

いま、ポスターのロゴでも使っておりますが「留萌元気印」となりますよう頑張り、この活動を通じて、次世代に伝える何かを見つけていき、地域貢献、社会貢献ができれば嬉しく思います。皆様の絶大なる応援を宜しく願います。



留萌商工会議所青年部

副会長 武田 佳彦氏

本日はロータリークラブ例会にお呼びいただきまして誠にありがとうございました。

私が所属しております留萌商工会議所青年部は、平成3年に偉大なる諸先輩方によって設立され早18年が経過いたしました。地道な活動と共に会員数も52名に増加し北海道内においても活発な青年部として認知されてきているところでございます。設立当初の活動方針としては自己研鑽に重きを置いた活動が中心でしたが、平成14年度に開催した北海道ブロック大会留萌大会を契機に活動内容に変化が見られました。それは「次代を担う青年経済人として今、何が出来るか？」を追求し、自己研鑽のみならず資質の向上・地域経済発展に貢献すべき団体への意識改革を生み出しました。団体の根幹を覆すご時勢だった事もあり会員内において紆余曲折を繰り返す事も多々ありましたが、近年はベクトルを合わせ全会員一丸となって活動に取組

んでおります。

本年度におきましては、景気回復基調も見られず財政再生団体転落の危機を迎える留萌市に対して提言活動を行う目的で、新たに政策委員会を立ち上げました。当委員会においては本年度の提言行動目標として「留萌周辺の人口減に歯止めを懸ける新たな産業の創造と提言」を掲げております。具体的にはバイオエタノール生産工場の誘致による雇用の創出をメイン事業として提言実現へ向けて活動しております。

また、10月10日には留萌市内で初めての「カルチャーナイト2008 in るもい」という事業を開催いたします。この事業は主に児童・生徒・幼児を対象として市内の公共・民間施設を楽しみながら触れ合っていただき、地域文化を堪能していただく事を目的とした事業でございます。これらの事業がどのような効果をもたらすのかは未知数であります。我々青年部といたしましても日々研鑽を積み継続していきたいと考えております。

私自身といたしましては青年部に興味を抱き入会して8年目を迎えましたが、昨年度、会員皆様の多大なるご尽力を受けて日本商工会議所青年部に出向いたしました。1年間という短い期間ではございましたが、全国を回らせていただき多くの経済人と懇談し交流を深め、かつ担当委員会での活動の最中に各省庁なども訪問し積極的に意見交換をさせていただきました。その活動において強く感じた事は「熱意と連携」です。現在、窮地を迎えている留萌財政及び経済に光明を見出そうと商工会議所青年部のみならず多数の諸団体の皆様方が熱意をこめて趣向を凝らした施策を打ち出して積極的に行動しておりますが、今後においてはより一層の団体連携強化が必要に成ると思われ。手段は違えど目的は同じはず。私がこの場に立ってお話出来る事も歴史を積み上げてくださった諸先輩方のおかげです。団体が連携しながら「熱意を持って行動」しようじゃないですか。

「行動こそ 次代を先駆けるべき青年の

責務と信じ 力を合わせ国の礎となろう」

(留萌商工会議所青年部 指針)

本日は大変ありがとうございました。